

四條畷市福祉計画検討委員会 議事録 (第3期地域福祉計画諮問)

日時：平成26年1月29日(水) 午後1時30分～午後3時00分
於：四條畷市上下水道局2階 大会議室

<出席委員> 小寺委員長(議長)、北川副委員長、石井委員、山上委員、小野委員、村上委員、守屋委員、矢田委員、湯元委員、福田委員、佐藤委員、大滝委員、久門委員、平山委員(順不同)

司 会 ～開催に先立ちまして、健康福祉部長の谷口から挨拶を申し上げます。

谷口部長 皆様こんにちは。健康福祉部長の谷口でございます。いつもお世話になっております。

本日は、寒さも少し緩んだと思いますが、お忙しい中本委員会に御出席賜りまして誠にありがとうございます。

また、平素より本市の福祉行政に多大なるご協力賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

会議の開催に当たりまして一言ご挨拶させていただきます。

今回の会議は、1月16日付けで諮問させていただきました第3期四條畷市地域福祉計画(案)についてご審議をお願いするものでございます。

ご存じのとおり、地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づく計画でございまして、本市における地域福祉施策を推進する基本となるものでございます。

本市では、平成16年に第1期、平成21年に第2期の計画を策定いたしまして、計画的に地域福祉の推進に取り組んできたところでございます。

この度、少子高齢化の進行や東日本大震災の発生による防災意識の高揚等の社会情勢の変化を受けまして、また、第2期計画の計画期間が平成26年度をもって終了すること等から、新たな課題に対応することを趣旨に第3期計画を策定するものでございます。

今回の大きな改正点といたしまして、より地域福祉と他法の公的支援との連携を強化するため、計画の位置づけを、他の保健福祉関係計画の上位計画としてではなく、各計画の隙間を埋めるものとして

位置づけたこと、また、昨年6月の改正災害対策基本法により義務付けられました「避難行動要支援者」の名簿作成を含む、避難行動要支援者対策を計画の重点的な取組みとして位置付けしたこと等でございます。

本計画は、今後5年間、本市の地域福祉を推進する上で重要な計画となりますので、厳正かつ建設的な審議が行われますことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、今後の本市福祉行政の推進と本委員会の運営についてのご協力を重ねてお願い申し上げます。誠に簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

司 会 それでは、本日の会議の成立について、ご報告させていただきます。本日は福祉計画検討委員会委員14名の出席をいただいておりますことから、四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたすことをご報告いたします。

次に、事務局職員を紹介させていただきます。

健康福祉部長の谷口です。

生活福祉課主任の溝口です。

生活福祉課の田中です。

計画策定にお手伝いいただいている(株)名豊の野田です。

どうぞよろしくお願いいたします。

なお、恐れ入りますが、谷口部長は他の公務がございますので、ここで退席させていただきますことをお許しくくださいませ。

<谷口部長退席>

司 会 それでは、ただ今から議事に入りますが、これ以降の議事につきましては、規則第3条第1項の規定により、委員長が議長となることとなっておりますので、小寺委員長よろしくお願い致します。

議 長 (小寺委員長) 皆様、改めましてご苦勞様でございます。本市の地域福祉計画に関しまして、24年の暮れから調査を始めまして、この間委員の皆様方に貴重なご意見をいただき、そして昨年末にパブリックコメントを実施いたしまして、新年、皆様方にお示しして、そう

いった中で今回素案ということで、案が出来てまいりました。これをたたきにして、委員の皆様方のご意見を伺い、そして成案にもっていきたいと思いますので、委員の皆様ご活発なご意見をよろしくお願い致します。

そうしましたら、議事に入っていきたいと思います。次第の3番「第3期四條畷市地域福祉計画（案）」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局 （事務局説明）

議長 ありがとうございます。ただ今事務局から、第3期四條畷市地域福祉計画（案）についてのご説明がありました、この件に関しまして、委員の皆さんご意見・ご質問等がございましたら、よろしくお願いします。

山上委員 まず、これは何人の方で作られたんですか。どこの担当で、何人の方で作られたんですか。

事務局 生活福祉課が中心となって作成しており、71ページを見ていただきますと、専門部会の要綱がありまして、第3条に庶務というのがあり、生活福祉課の他に高齢福祉課、障がい福祉課、子ども福祉課、子育て総合支援センター、保健センターの担当者に意見を聴いて作成しております。

山上委員 意見をいただいたものをまとめたものを、どこに持っていつていますか。専門部会の意見をまとめられました。それをどこに持っていかれるんですか。おたくの方に持っていくんですか。

事務局 そうです、意見はこちらで取りまとめさせていただきます、こちらの方で計画というかたちにさせていただきました。

山上委員 これだけのもの、これだけの資料ができている訳だけど、意見をいただいたことについて、1つ1つ検証しながら、こういうようなかたちを作られたんですか。

事務局 はい、そうです。

山上委員 これは、何人の方で作られました。それぞれの担当課の方は出て来られていますか。行政、市のそれぞれの担当課が必ず会議に出席されている訳でしょう、障がい者関係は障がい福祉課、高齢者関係は高齢福祉課の担当の人が出て来られているということになりますか。担当者の方を含めての会議されているのかな。

事務局 はい、そうです。会議をしています。

山上委員 これは、何回くらいされているのですか。年間、これが出来るまでに何回されていますか。

事務局 専門部会といたしますと、24年度から含めると、

山上委員 専門部会の方はよろしい、おたくに渡しました、おたくが受けたんでしょう、受けてこれをまとめるにあたって、やっぱりそれぞれ詳細にあたって聞かなくてはなりませんね。担当の方にどうですかと、たぶん検証されているじゃないかなと僕はこれは推測ですよ、思っている訳ですが、そのためには、来ていただかなくてはならない会議するには、会議するのか、電話で聞くのか、それは知りませんよ、とにかくそういうようなやり取りですね、会議されているのかどうか、それともおたくの方で独自で作られているのかどうか。

事務局 専門部会以外の市担当者だけの会議も実施しております。また、計画が出来上がっていくにつれて、担当者同士でメールや電話、話し合い等、調整しながら計画を作らせていただきました。

山上委員 これを言ったら困るやろうけど、要は、この中の地域の地域があまり出て来ていない、地域が主になっていくと思うんですね、要するに市側のことはもちろん分かるけど、地域と協働でやらなあかんでしょう。あくまで地域福祉と言われている訳ですから、地域のどこを主体にしてやっていくかということが問題と思うんですね、そこらと上手く交流できているかどうか、把握されているかどうか、民生委員とか、各種団体ありますよ、そこでのきちっとした交流、今日、情報も共有でやっていますとこういうように言われていましたが、地域の方で共有された情報をどれだけご存知かなと、それを理

解やっているんですかというのを聞きたい、分かっているのですかということ。それを抜きにして、これは何の意味もないんです。地域のどこまで把握されているのか、例えばどこそこの自治会、区長中心にどれだけ知っておられますか、高齢者の方がどこにどうの方がおられますか、障がい者の方がどうの方がおられますか、どこまで把握されていますか、市の情報をどこまで共有しているんですかということを知りたいです。細かいこと1つ1つ言ったら困ると思うけど、全体的なことと言うと、そのへんのところを作った人が分かった上で、これ作られているのかということを知りたい訳です。ただ机上ではだめですよ、机上だと 意味ないです。

事務局 一つ一つ地域に入り込んで情報を聞いて計画を作っていくのが理想と考えますが、今回は、アンケートを市民1000人に郵送させていただいて、アンケートを取ったということと、民生委員児童委員協議会や地区福祉委員会を含む各団体から代表者に出させていただいて、ヒアリングをするなど一緒に会議で話し合うというかたちで、意見をお伺いするという方法を取らせていただきました。

山上委員 ということはですよ、各自治会の地区の区長がどれだけご存知なんですかということ、このことを市としてどれだけ区長の方に言われているんですか、共有されているんですか。区長もここ出て来なあかん訳やから本来なら、出しなさいということですね、地域部会というのも作っていかなくてはいけないですね、この中に。こういう担当の事業所だけではなく、地域部会というのを作っていった中で、地域の中での、そういう意見を吸い上げていくようなかたちをやらないと、地域が必要、ただ、たまたまここは民生委員さんがきちんとやっておられるから、民生委員さんでフォローをある程度されていると思うんですよ。やっぱり区長とかそんなん知っておかなくてはならない。各班長さんもみんな知っていなければならない。そこまで下ろしていかないと、まったく意味ない訳ですね、仕組みとしてスキルとしてね、そういうところが全然ここでは見られないから、で誰がつくったんですかということ。確かにかたちはすごいですよ、これから検証を我々がやっていく訳やから、検証やっていきますよ、そのことを聞いていきますよ、これは出来たばかりやけど、どこまでできているんですか、ほんまに入っているんですか、区長さんご存知ですかと、細かく聞いていってよろしいですか。

民生委員さんはほんまに大変と思っている訳ですよ、民生委員さんいなかったら成り立たないですよ。ものすごく重く見えています。社会福祉協議会、中核となっていますが、社会福祉協議会そのものも、基本的にもっと動かないといけない、あくまでも職員が何人いてるか、人財の人が何人いてるか、そういうところみつめていかなくてはいけない、ほんまに動けるんですか、社会福祉協議会は機能しているんですかということを見つめていかなあかん、全てのそういう組織そのものを各種団体やられている。そのへんのところもきちっとみつめた上で、総合的にやっていかなあかん。今のままでしたら、障がい者の方何人おられるのか知ってますか。高齢者の人、手帳持っておられる方何人おられるか知ってますか。まずそこなんです。そういうことを共有しておかなあかん訳よ、そうでしょう。まったく分かってない人がこういうものを作ったところで意味ないですよ。どこそこの地域は、どこそこの地区は、何人おられますとか、意味合いのことも知っておく必要がある、あんまりおたくばかり悪く責めているわけではないが、この中でお互いにこういうようなこともやっぱり中心に変えていこうではないかこの際、やっぱり新たにこういうものを作っていく上においてね、見本を示すような委員会だったら委員会をやっていかないと意味がない。そのためには区長が来なダメです。ここには来られていない方、地区会としてやっているのかどうか知らないですよ、区長会かな、その中でこういうことを言われているかということ、区長も知らないこと意味がない、区長が要でしょ、各班長ご存知ですかと、知ってなかったらまったく意味ないリーダーということ。区長さんおられるところでごめんなさい。

久門委員 私は、逢阪の小さいところからここへ出て来るよう言われて。

山上委員 もう1度仕組みをみつめていく必要があるんじゃないかな、これを聞いててね。市のことばかり言っってはってね、地域でしょということ。

事務局 今回の説明では、時間の都合上、市のことを中心に説明させていただきました。今回の計画（案）には、住民や地域の取り組みも掲載しております。

山上委員 市のやることははっきり言って市民は助けられない訳ですね、市のやることは。やっぱり地域力が必要な訳やから、あくまで最終的には個人で自分の身は自分で守っていかなければならない。そういうことを訴えていくようなことを強力に伝えていくようなことをやらなければならない。ここに書いているのは、市のことばかり、弱すぎる訳ですよ、もっと勉強やってください。このままではダメやから、民生委員さんおられますけども、民生委員さんが地道な活動をやられておられるからね、何とかそこでもっているんじゃないかなと思っているんですけども、民生委員さんおられなかったら崩壊ですよ、四條畷市は福祉の方は。それでも回っておられるのは分かっているから、把握されているし、ふれあい委員さんとかそんなところは本当だったら、ふれあいサロンとか地域がやらなければならない、ふれあいサロンなんかは。民生委員さんが入ってやることないんですよ。民生委員さんはもっと困っておられる方のところに本来は行かなあかん訳やから、生活に困っておられる方、いろんなことに困っておられる方、そういうところに行くのが、本来の民生委員さんの仕事やから、地域の福祉委員さんとかは、なかなか上手く機能やっていないもんやから、やっぱり民生委員さんが行かなあかん訳やから、進んでいるところやったら民生委員さんは行かない、行っていない。そこだけで、びっくりしたんですよ。民生委員さんが中心になってやっているのかなと。本来なら民生委員さんがそんなことする仕事ではない、お手伝いはしますよもちろん、お手伝いは側面から、地域でやっぱりふれあいサロンとかやられているところは、だいたいほとんどなんです、だから交流とられていますけども。だから地域が、ただ僕が言いたいのは、地域の人がほとんど話している組織とかそんなね、自治会まで上がって来ていない、そのところちょっと心配です。

事務局 取組みのところで、市民、家庭への取組とか、地域への取組というかたちで書かせていただいているのですが、今後は自治会とか区長さんとかにも、地域福祉ということをもう少し啓発していく必要があるかと思えます。

山上委員 もう少しではなくて、共有と言われているんだから、知っているんですかと、全然知らなければ辞めてもらいますよと、区長さんに言ってもいいですよ別に、本来はですよ。

村上委員 今日も3時から社会福祉協議会でね、第3回ですけどね、地区福祉委員会の連絡会というのを、これ第3回目なんですけども、立ち上がってそれほどね、今年度くらいですかね、僕が出させていただくのは2回目ですけども、各地区がどういう活動をやっているのかをそれぞれ報告する。それは、社会福祉協議会の担当者が招集する。そこではあまり審議はしませんけど、そこでいろんな話し聞かせていただいて、自分のところに取り入れられるなどと思ったら、来年度取り入れるとかね。そういうかたちで、徐々に今回3回目ですから、徐々にやっている。もともとの場合は地域福祉委員会の委員長には区長さんが、福祉委員は僕たち民生委員が、その本当のボランティアさん福祉支援さんにも入ってもらっていますが、なんで委員長に区長さんを置いたかという、結局自治会とか先端を動かしてもらうのは、区長が一番力持っていますからね、介護とかやられた時は、僕ら福祉関係だけでは困難なこともあるので、全体的に、一緒に取り組んでいます。

山上委員 一体でやらないかんからね、その意識、認識ということを行政として、行政は1つのルール基本、ルールを敷いておかないかんからね、市だけのことと言ってどうすんの、市の取組だけではどないすんの、地域をやっぱり動いていただけるように意識を持っていかなあかん訳やから、それをほっとくんですかということを言いたい、今も市の自分とこのことだけしか言っていない。

事務局 先ほども申し上げましたが、時間の都合で市の取組みのところだけしか説明しておりません。もちろん地域と共に福祉の向上を図る取組みを進める意識はあります。そのための支援は、市として行っていきます。

議 長 山上さんから大変厳しいご意見が、確かにこの5ページの計画のところ、社会福祉協議会の地域福祉活動計画というような具体的な計画も合わせて、地域福祉を推進していく要因になっていくと思うんですけども、こことどういのかたちで連携していくかということが大事になるのかなと思います。それと、やはり行政的なふせんとか、専門職がどう活動しているか、その方々、CSWとか、民生委員さんとか、そういう方々とか、関係団体とのヒアリングはやっ

ているんですけども、地域の方の意見はね、まあアンケートで取られるけども、地域の中でどういうかたちで、どういったことで困っているか、地域によって違うやろうし、計画作る時には、やはりなんかワークショップみたいな、区ごとに入り込んで行ってそこで、みんなで話し合いながら区長も入ってもらってですね、そういったことで啓発も含めて、地域を活性化していく一つの手段になるのかな、そういう取組やられる所が多いですから、四條畷市もぜひまあ途中からでもいいし、地域の生の声をどういうかたちで吸い上げていくか、そういうことも合わせて考えて行って欲しいなと思います。他、何かご意見、ご質問ございませんか。

守屋委員 ちょっとお聞きしたいんですけども、福祉教育推進をうたっていますよね。現在どういう福祉教育をしているんですか。

事務局 例えば、小学生が特別養護老人ホーム等に見学に行ったり、車イス体験とかそういったことをしていると、聞いております。

守屋委員 それだけ。

事務局 他にも実施されていると思います。

守屋委員 福祉教育はすごく大事やから、車イス体験だけでは福祉教育にはならないと思うので、もうちょっとして欲しいです。

北川委員 今、社会福祉協議会で、65歳以上のひきこもりをなくそうという運動で、エンジョイというのを立ち上げまして、囲碁将棋、麻雀とか、カラオケもやっています、それからサロンもあります。そして、書道がありまして、体操がありまして、太極拳とかそういうのを取り入れて、北出のエンジョイの部屋をフル活動に使おうということで、週4日間、今現在4日間なんですけど、けっこう1年ちょっとですけども、高齢福祉課の方からの援助で社協と協働でやっているんですけども、だんだん人数が増えてきて知名度が上がってきたのか、書道は今二十数人受け持っているんですけど、今全部、講師は全部無料と決めていまして、消防署を辞められた井上さんという方が、監事で1人入っていただいています。段々分かってくるんですけど、とにかく田原からとか、清滝からが遠いんです、社協の北出までは、

それで車を車両を1台用意しまして、5人以上だったらお迎えに行く、送って行くということで、さんらというところの利用者さんが木曜日カラオケに来られていますけども、社協といたしまして、やっぱりあの土地をなんとか上手く利用して、使っていこうということで立ち上げまして、おかげさまで段々と増えてきて、今菅井主任が関わってくれてまして、みんな喜んで、救命救急とかいろんな講習を持ちまして、この間は車イスの乗せ方、降ろし方を保健センターの方に来ていただいて研修しています。頑張ってフルに5日間あるのはしんどいなということなんですけども、私は書道を受け持っているので、だいたい5日です。こんなになるとは思わなかったんです。10人で切ろうねと言っていたんですが、いつの間にか24人になっちゃって、朝から大変です。

議 長 そういう方は、ひきこもりの方ですか。

北川委員 いいえ、ひきこもりを予防しようということで、

議 長 ひきこもっている方ではないんですね。

北川委員 ないんです。募集をかけて来られています。

議 長 予防的な。

北川委員 予防的ですね。とにかく明るく、元気でということで。

議 長 ひきこもりもね、かなり地域福祉の制度の谷間の方というか、かなり大事なことですけど、保健所で前やっていましたね、ひきこもり対策みたいな。

佐藤委員 だいぶ前のことですか。高齢者で独居の方とか、

議 長 ただ今も、若年者のひきこもりがかなり問題になっているんですね。

佐藤委員 発達障がいの、そういう方の今行き場を作ったり、

議 長 対策というのは、かなり遅れているというかね、野崎の人権センタ

一、北河内のひきこもりの相談センターが窓口になっていますね。だから実際どれくらいの方がおられるのか、もうひとつきちんと把握されていないというか。

北川委員 みなさん知っていますね、人権の方も四條畷は相談にのっている。

守屋委員 案外隠れたひきこもりさんがたくさんいるから、把握できないです。

北川委員 かなり相談あるみたいですね、就労相談とかね。

守屋委員 親御さんが心配して

議 長 他、委員さん、ご意見ご質問ないですか。

平山委員 ここのアンケートの **56.1%**の回収率というところですよ。これが、高いのか低いのか分からないんですけども。それと、パブリックコメントを実施しても意見なし、こういうのももっとなんか、普通の人の意見というのを吸い上げるとかね、聞かせてもらえとか、そういう方法が一番大事なんじゃないかな。何をしても、どこの委員会行っても、なんかパブリックコメントするんだけど、意見なしとか1件とか2件とか、その本当に私たちがこの会とか、個々の会で必要なものというのはね、そういう本当にここ四條畷に住んでいる方の意見を一番知りたいと思うんですね、それを聞く機会というか、聞かせてもらうことができないというのが、なんかすごく寂しいなというか、本当はそういう毎日生活してて誰にも言えないけども、せっかくこういう市がそういうのをやっているんやから、ここで意見言わせてもらおうとかね、そのそういうかたちに持っていく、理想論かもしれないんですけども、なんかすごく数字的なものでもね、ただ単にすっとおっしゃったじゃないですか **56.1%**って、それを市はどう捉えているのかなとか、やっぱりせっかくこういうパブリックコメントしているのに、意見なしでスルーしてしまう。そういうことってどうなんかなとすごい疑問に思うんですけどね。

事務局 アンケートに関しましては、前回は **40%**弱でした。今回はそれを上回る数を集計することができましたし、半数以上の方に回答いただいたことから、一定意見を集約できたのかと考えます。

平山委員 それをね、上回ったからよしとするのではなく、せっかく出しているやっぱり返してもらおうというのを前提で出している訳じゃないですか、100%までとはいいませんけど、もう少し何とかならないのかなど、やっぱりみなさんの意識というのを、高齢化社会、高齢化社会という全体的に言っている話なのに、もっと意識を高めていけるような方向性があればいいなとすごく強く思います。

事務局 今回アンケートをやってよかったことが、確かに半数弱の人が返してくれなかった結果となったのですが、今回、アンケートの中に地域福祉に関して説明文も入れたんです。例えば、地域包括支援センターというのはこういう機関ですよとか、社会福祉協議会というのはこんなんですよとか、災害時要援護者制度こういう制度ありますよと、1個1個説明書きを入れていったんです。そのことによって、自由意見欄等に「非常に勉強になりました」という意見がありまして、確かに100%の回収率とはなりませんでしたが、少しでもそうやって地域福祉に関して興味を持っていただいたりとか、理解を示していただいたことについては、非常に今回のアンケートについては効果があったと考えております。

平山委員 そういう意見もこの場でもね、聞かせていただいて、それを他の方にも知ってもらうためにはどうしていったらいいのかという、そういうことを発信していくということが、すごく大事なことじゃないかなと思うんですけど。

事務局 そうですね、先ほどの山上委員の意見と同じで、地域を巻き込んで、もう少し意識を高めていく必要があるのかと思います。

北川委員 平山委員がおっしゃったように、やっぱり何も言うことありませんということはないと思います。1人1人絶対何かあると思うんですよ。そこを聞き出していくのがやっぱりね調査の対象かなど、家庭の中でもそうですやん、何か1つはありますやん問題が、それをこの四條畷市民、市域の端に住んでいる方もいらっしゃるし、近くに市役所のすぐそばという方もいらっしゃるでしょ。そういうことが、1つも何にも言うことありません。ということとは絶対ないと思います。

平山委員 大きな市ではなくってね、これだけの市じゃないですか、だからもっとコミュニケーションを図って、いろんな人と話し合って、いろんな意見を聞いて、掘り起こして持ち上げてくるというふうに、これが大きな市で人口もすごかったら、やっぱり地域、地域で固まってしまうと思うんですけども、たかだか言ってたら悪いですけども、これだけの市じゃないですか、それを市を全体を巻き込んでね、やっぱり上げていく意識を高めていくということが、すごい重要なことじゃないかなと思うんですけども。

山上委員 パブリックコメントというのは、行政の上からでやっているから、データがなかなか集まらない。これが例えば地域の同じ内容ならば、地域の方から出せばほとんど集まるんです、回収できるんです。そのやり方がどうしても行政から郵送しているでしょう、やり取りやっているでしょう。行政から来ているからいいやろとかたちになってしまう。ところが地域で例えばコミュニティーバスの調査やったらほとんどやっているんです。700も集まるんです。個々の意見、コメントも相当入ってくるんです。本来ならそういうコメント言いたい訳です、待っているんです。その機会がなかなかないということで、その機会をいかにしてこちらの方と行政側がそういうような発言できるようなそういうものを作るかどうかというのが、行政の知恵なんです。あんまりパブリックコメントはみんな拒否しますわね、横文字は書かなくていいんですよ、要するに反映させたいと、福祉行政のために反映させたいというようなことを直にやっていただく、そういうようなことで、ここは片寄るって言ったらずるかもしれないけど、そういうようなかたちでないと返って来ませんわね、ほとんど。みんな待っているんですよ、例えばくすのき広域連合の保険はものすごく高いでしょう、めちゃくちゃ高いんですよ、これ以上言わんときますけども、言いませんけども、ここの予算以上ですよ、1万4・5千円のあれで、手帳持っている1万4・5千円ですよ。それに204億円使っているんですよ、年間に。198億から200億でしょう5万7千人で、ここの予算、ここの市以上のことを向こうやっている訳ですけども、そういうの調査したらみんな出てくるんですよ、いろんな意見出てきます。意見を出していただけるような手立てを一人でやってたらあかんですよ、みんなに意見聞き合っってということをお願いしたい訳です、みんな持って

はるからね、ここの各担当の人でものすごく考えてる人おられる訳ですけども、その意見をみんなで出し合って、いかに郵送するなりなんなり、地域の方に頼むなり、というようなことをちょっとお願いするなりしてね、区長さんにお願いするなり、地区かなどいうのかな、そういうところをお願いする、区長中心なら区長にお願いする。こういうことであれば絶対集まりますよ、区長中心にやったら。区長が動いていないから集まらない、それ1つ取ったら、アンケートですよ、たぶん行政から送るのと区長さんから言われるのは全然違いますから、ほとんど集まるんじゃないかなと思いますけど、それも1つの考え方じゃないかということで、言わせてもらっているということです。

議長 他、ございませんでしょうか。

湯元委員 文章の表現だけちょっといいですか、1ページ目の9行目のところに、自らの命を絶つ自殺者の増加など、増加ってなっていますが、これ確か新聞などで平成22年度減少傾向になっているので、もしあれでしたら、増加の文字だけ取っていただいた方がいいのかなというのが1つと、同じく2ページ目の6行目も同じような表現になっていますので、文章的に一番最初の方というのは、もしこの計画書出しはったらいろいろ最初のところなんで、ちょっと文章だけでも考えていただきたいなと思います。

山上委員 何か写しはったのか。

事務局 いいえ、自殺者減少したのは、ここ最近の話なので、このような表現になってしまったと思います。

湯元委員 22年度が最高で、23・24、今年も下がっている、3年下がっているんで、「増加」という言葉だけ抜いたらいけるかなと思います。

事務局 修正します。

湯元委員 2ページ目ところ、「あるいは自殺者の増加等が新たな社会問題となっています。」この文章は、「増加」を取るだけでは無理なんで、ちょっと直していただいた方がいいかなと、ちょっと気になりました。

事務局 ありがとうございます。修正させていただきます。

議長 ありがとうございます。
他、ございませんか。

石井委員 先ほどから、みなさん、地域とかそういうこと言われるんですけども、私が一番思うのは、アンケートが返ってこないとか、ほとんどの人が関心がないという現状、市町村が一生懸命頑張ったところで、たぶん返ってくるアンケートの回収率は50から60に上がっても、そういうところの数字じゃないかなと思うんですけども、現実にごにおられる皆様は、みんな福祉に関係している仕事をされたり、福祉のことやられたりしている人ですから、いろんなことに興味があります。また、自分に携わっていることに関してはみんな興味があると思うんです。現状、学校がもし統合されることになったら、その地域のみなさん立ち上がって、一生懸命反対しますよね。それと同じようなかたちで、自分に関係ないと、関係あるんですけども、関係ないと思えば全く興味の無い話なんです。だからこんなアンケートがもし来たところで、関係ないわと思ってポイとはけてしまうというのが現状なんです。だから、これをどうやって打開していくのか、やっぱり教育なんですよね福祉に関しての、今現状、小学校で教育するとか、私が一番思うのは、65歳以上の老人の方にも、もう1度再教育というか、こういったかたちになっていきますという教育を、どこかのかたちで作るべきじゃないかなと思うんです、全員に。そうでないと、なんぼやっても同じメンバーの民生委員さんが集まって、同じような人がみんな集まって、同じことをずっと繰り返していたら、何も変わらないですよ、はっきり言って。現状みなさんいろんな会議に出られると思いますけども、同じような人のかたちの集りと思いませんか。新しい人が出てくるというのが、ものすごく少ないと思います、はっきりいって、現状僕の顔をみなさん知らないと思いますけども、そういったものなんです。僕なんか出てくるというのがみんな珍しいというような世界になっているのが福祉というのは、この現状を変えていかないと、なんぼいいことしようが、アンケートしようが、地区のソーシャルワーカーつけようが、ケースワーカーつけようが、何をやったって、結局それを還元するような人だけが使っていくだけの世界になって

って、もっとそういうことを使えばできるんだという人は、全然知らんままに最後までいってしまうという、現状がそういうかたちになっている気がするんですけども、はっきり言ってね。だからそのへんをどうやって打開していくのかという、先ほどのアンケートに出てきた認知度にしたって、そのアンケートを返してもらった人の中の認知度で、社会福祉協議会を何%が知っているのかというそういう世界なんです、現状はほとんど知らないでしょう。内容を知っている人をみたら、15%20%ということは、内容も知らないということは、名前知っていても、知らないことでしょう、はっきり言ってね、そのへんの打開をまずしていかないと色々な福祉政策をかけたところで、何も上手くいっていないというふうに思うんですね。だから、顔が変わらないというのが一番の原因じゃないかなと思うんですね、はっきり言ってね。みんな新しい人が出てくるためには、やっぱりそれ相当の教育もしてあげないといけないし、色々な知識も必要ですよ。それが住民が全部になってこの人が民生委員してもらっていいんじゃないかなというのが、みんな選ばれて出てくるのが、やっぱり民生委員だと思いますし、地区の委員だと思うし、また福祉の委員と思うんですね。だからみんな知らないから、知っている人だけがずっと永遠に続くという状況がこの地区がなっていないかなと思うんですね、だから共有がやっぱり少ないような気がします。それは、四條畷市だけではなくて、よその市でも同じようなかたちになっているのではないかなと思うんですね。私自身がコミュニティーソーシャルワーカー知ったのは、この前、夜中にやっていた守口のソーシャルワーカーの映像を見た時に、初めて地域のソーシャルワーカーを知った。これだけやっぱり僕らにしたって、福祉関係の仕事をしたりしても、知らないこともある。四條畷市はやっているのかという現状というようなかたちで、必要な人だけどんどんどんどん、一部分のところだけの知識だけを増やしていくというのが現状の福祉の世界じゃないかなと思うんですね。総体的に知っている人が、みんな同じ顔のメンバーが揃う。だからそういうのをやったって、先ほどパブリックコメントがないと言われていましたけど、書かないですよ、知らないことに関しては、パブリックコメントだけに全然知りませんって書いていいんやったら、たぶんたくさん返ってくると思います。でも現状はそんなんほとんどの人が社会福祉協議会だとかなんだって15%の内容を知っている人しか返ってこないですよ。それは、アンケートを返した人の中か

らの、15%、20%ということは、よっぽど認知度が低いんですよ、認知度をまず上げないことには、何をやってもたぶん上手いこといかなと思うんですよ。一生懸命みなさん代表の人が頑張ってるんではないかと思ってるんですよ、思うんですよ。結局あの、僕一市民としてね、見させてもらったら、上の方でごちゃごちゃやっているだけで、何やっているか分からんなというような現状ではないのかというふうに思うんですね、僕はそういうふうに思います。

議長 はい、またまた、厳しいご意見ですね。

山上委員 まずは自分がやる、あなた自身がやっていって毎日やっていって、例えば先ほど大事なものは、私も地域の方で老人会の中でなかなかできないんです。とりあえず話し合いだけやりましょうと、これ5人集まったんです、先月。それがやっそこさなんですよ。5人でもそれを楽しみでやっておられる訳ですよ。次またお願いしますということで、その方は昨日もちっと参加された方あったんですけども、やっぱり楽しみでされているのが分かった訳です。それを増やしていくようにね、各自ここにおられる方が1人で10人増やしていただければ、相当増えるんです。その姿勢で委員になった以上は、我々でやっていきましょうよ、人ではないよという姿勢でやっていく意識を持たないと、何も言うたところで言われても、その通りなんですけども、まず自分がやろうといった姿勢で立ってやらないと、なかなかよくなりません、その中で結果を出す。この委員会の中で、今度いつされるか知らないですけども、その時までにはどれだけのことをまず話しできるかと、各自活動やってきた中で、そういうことを認識した中でこの委員会をやっていかないと意味がないんですね。ただ委員会に出ているだけでは意味ないので、地域の中では自分が居る所で、どれだけのことができたかということを発表できるようなかたちを各自が持っていないとダメじゃないのかな、心意気ですよ、別にしなくていいですよ、無理してね難しいですから、なかなか慣れている人でないとできないと思いますけども、その意識を変えていく、まず自分自身の意識を変えるところからやっていかなとダメじゃないかなと思いますけども、そのためには考え方を覚えてもらわあかん。

議長 他、ございませんでしょうか。

無いようですので、本日さまざまご意見いただきまして、それを踏まえて、今日のこういうかたちで市の案が出てきましたので、これに修正を加えて、市長に対する答申案を作成していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。できました答申案に關しましては、次回この検討会でまた答えて頂きたいと思えますので、よろしくお願ひ致します。

これで本日の議題は終了いたしたいと思えます。

最後に事務局から何かありましたらよろしくお願ひします。

事務局 貴重なご意見どうもありがとうございます。先ほど委員長がおっしゃったように、ただ今のご意見をまとめさせていただき、市長への答申案というかたちで作らせていただきまして、次回の委員会でまたご意見をお伺ひします。

次回なんですけども、次第の方にも書いていますが、2月18日火曜日にさせていただこうと考えています。場所の方ですが、保健センターになりますので、お間違えのないようによろしくお願ひ致します。保健センターに入られてすぐ左手に集団検診室というのがございますので、そちらの方で開催させていただきます。この委員会は毎年年度末に行っている各計画の進捗状況の管理と合わせ、答申案についても審議させていただきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひ致します。今後の計画の予定なんですけども、次回の委員会で答申が出来上がりましたら、その後地域福祉計画策定というかたちになりまして、3月中に印刷をさせていただきたいと思えます。製本ができましたら、皆様にも配布させていただきますので、よろしくお願ひ致します。今回計画と一緒にですね、概要版も1枚でまとめたものを作らせていただきますので、それも先ほどもいろいろ啓発が足りないということで、ご意見がたくさんありましたので、概要版を基にいろいろ説明の方、地域にさせていただきたいなど考えておりますので、またどうぞ、よろしくお願ひ致します。事務局からは以上です。

山上委員 これ、市長に答申しはるの。

事務局 はい、答申します。

山上委員 市長はご存知なんですか。

事務局 はい、この計画案についても、市長にも伝えていきますので。

議長 はい、ということで、本日予定しておりました、議案はすべて終了致しました。
本日はどうもありがとうございました。